

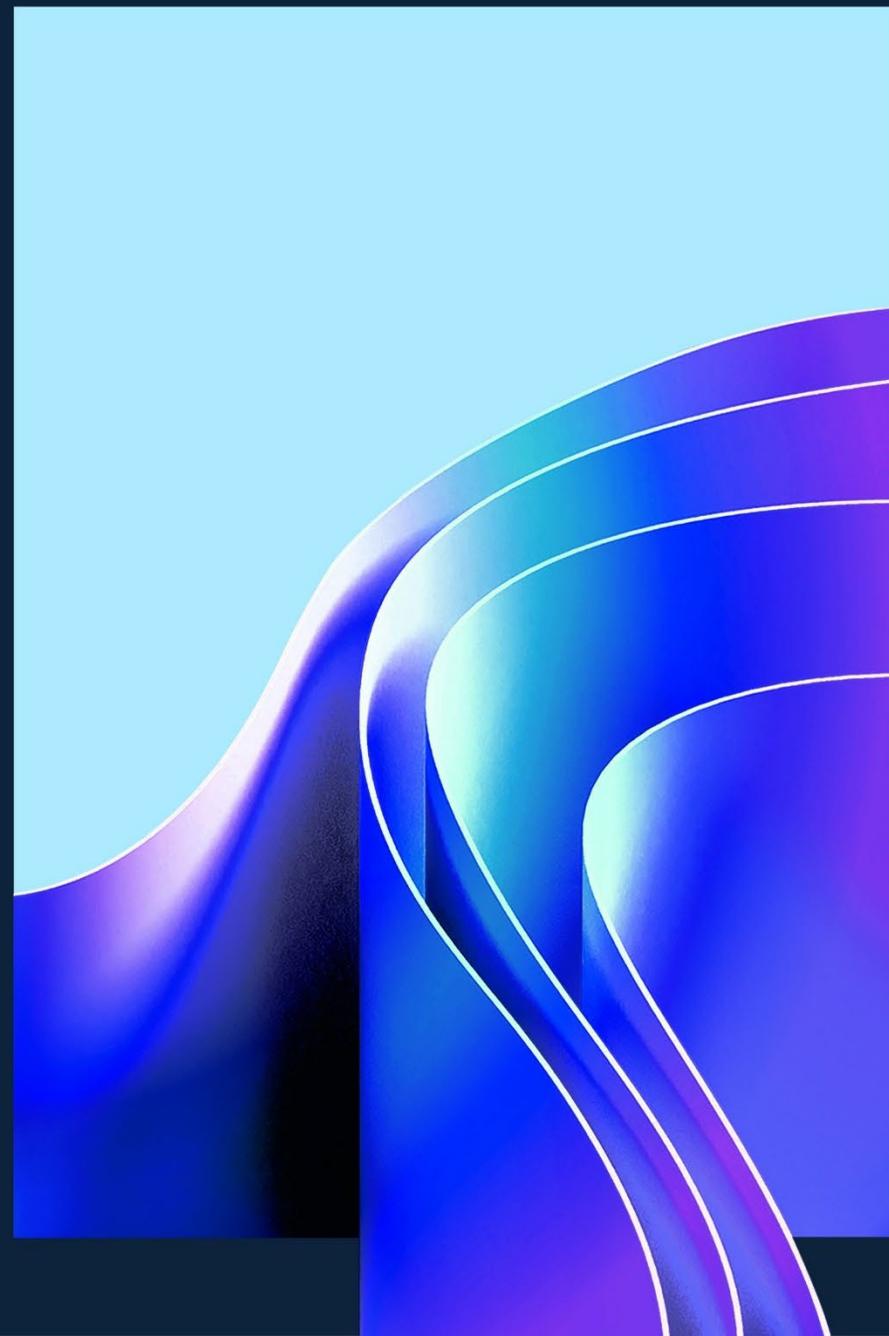


Venture Pulse

Q4 2023

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

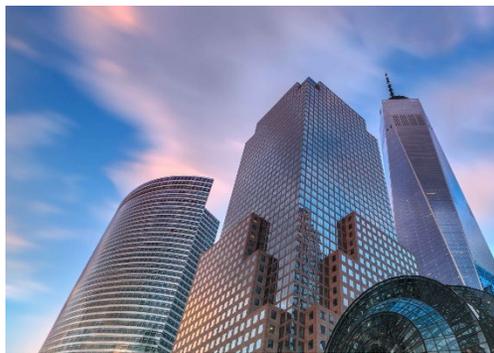
2023年3月6日



要旨

グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、749億ドル（取引数：7,572件）に微減
- ダウンラウンドの傾向が継続し、全案件に占めるダウンラウンドの割合が増加
- B2Bとヘルスケア分野は引き続き堅調
- ベンチャー企業の資金調達は前年比で横ばい
- 世界の上位取引10件のうち6件は、米国企業に対し実施



米国

- ベンチャーキャピタルによる投資は、375億ドル（取引数：2,879件）に微減
- 全案件に占めるダウンラウンドの割合は2018年以前の水準へ増加
- コーポレートベンチャーキャピタルの撤退が続く
- IPO活動の低迷が続き、イグジットの動きが鈍化
- 2023年の年末にかけて初回資金調達を実施する企業が急増

南北アメリカ

- ベンチャーキャピタル支援企業による投資は、401億ドル（取引数：3,225件）に上昇
- アーリーステージ案件は依然として堅調
- カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資総額は14億ドルとやや回復
- AI、クリーンテック、ヘルステック分野への投資は堅調
- 南北アメリカにおける上位10案件のうち、8案件が米国カリフォルニア州で行われる



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は、188億ドル（取引数：2,390案件）にとどまる
- 特にレイターステージの案件においてバリュエーションが急落
- アーリーステージ案件は底堅さを維持
- 日本における投資は4四半期連続で増加
- 上位取引10件のうち7件は中国企業に対し実施

欧州

- ベンチャーキャピタルによる投資は、138億ドル（取引数：1,750件）と引き続き低調
- 全案件に占めるダウンラウンドの割合がパンデミック以来の高水準に増加
- 初回資金調達額は好況前の水準に戻る
- 資本は依然として中規模ファンドに集中
- AI、Eコマース、フィンテック分野が上位取引10件を独占

グローバルー2023年第4四半期 (1/3)

2023年は、世界的にベンチャーキャピタル市場にとって重大な経済的課題のほか、地政学的緊張と紛争、ベンチャーキャピタルが支援する企業のバリュエーションに関連した継続的な懸念により、特に困難な年となりました。ベンチャーキャピタルがディール活動に関して慎重な姿勢を示したため、ベンチャーキャピタルによる取引総額、取引数ともに2019年以来の水準に落ち込みました。

スタートアップに押し迫るダウンラウンド

2023年、世界中の多くのスタートアップが大幅なコスト削減策を講じたほか、インサイド・ラウンド（既存投資家による追加投資）の実施やブリッジローン（つなぎ融資）を受けるなど、ダウンラウンドの回避に努めました。このような活動の多くは、企業が既存ラウンドの追加調達に注力したため水面下で実施されました。2023年第4四半期には、この傾向にやや変化がみられ、より低いバリュエーションで実際のダウンラウンドを発表する企業が増加しました。この傾向はイグジットが適切に再開されるまで続く予想されます。ダウンラウンドに加え、2023年第4四半期はスタートアップの廃業も増えましたが、これも新たな投資を呼び込むことができなかつたためであり、今後もこの傾向は続くと考えられます。

収益性重視の成長計画へ

2023年は経済情勢と投資家からの圧力の高まりにより、スタートアップの多くは成長計画を見直し、黒字化への道筋を強化することに目を向けるようになりました。2023年第4四半期もこの傾向は続き、ベンチャーキャピタルはポートフォリオ内のスタートアップに対し、効率性を高め、事業計画を見直し、収益性を高めるよう一層の圧力をかけています。

また、一部のスタートアップに対して、現在の経済情勢では生き残れないとの認識がここ数四半期で高まっています。パンデミックの状況下で急速な成長を遂げた多くのスタートアップは、高水準のインフレや急激な金利の上昇と高止まりなど、経済状況の急激な変化により壊滅的な打撃を受けています。特にラストワンマイル配送や後払い決済事業に注力している企業が大きな打撃を受けており、ユニコーンを含むいくつかの企業がすでに姿を消しています。今後新たな資金を集めることができなければ、さらに多くのスタートアップが姿を消す可能性があります。

AIにフォーカスしたソリューションに投資家の関心が集まり続ける

人工知能（AI）は引き続き世界のベンチャーキャピタル市場にとって明るい話題であり、世界中のベンチャーキャピタルがAIに特化した企業に強い関心を寄せています。2023年第4四半期には米国のAnthropic（20億ドル）とMetropolis（17億ドル）の2社が10億ドル超の資金を調達しました。なかでも生成AIソリューションは特に注目されており、大企業などからの関心が高まっています。

自動運転関連のAIソリューションについては、投資家が真の自律走行車の実現に必要な資金規模を理解し始めたため、2023年第4四半期にやや減速しました。このため、自律走行車メーカーとAIモビリティ・プラットフォーム企業との提携に加え、自律走行車分野での統合が進みました。こうした企業の合併や企業間提携が進むにつれ、新規のプレイヤーがこの分野に参入するためにはよほどの資本力があるか、ユニークなソリューションを持っていない限り難しくなることが予想されます。一方、アグリテックのようなニッチな分野に向けた自律走行ソリューションは、引き続きベンチャーキャピタルの投資を集めています。

2023年第4四半期、新たなIPOは実現せず

2023年第3四半期に英国のArm、米国のKlaviyoとInstacartの3社が米国市場で上場しました。これら3社のIPOによりIPO活動が活発化すると期待されましたが、2023年第4四半期中に新たなIPOは実現せず、2024年後半までにIPO市場が大きく回復する可能性は低くなったと考えられます。ただし、米国の成熟したスタートアップの多くはIPO市場の本格的な再開に向けて準備を進めています。また、2023年第3四半期のIPOによるイグジットはM&A分野への注目を高め、バリュエーションの確実性に役立っているかもしれません。これは、買い手と売り手のバリュエーションに対する評価のギャップを改善し、ひいてはM&A取引の増加につながる可能性があります。

グローバルー2023年第4四半期 (2/3)

2024年第1四半期に注目すべきトレンド

ウクライナや中東情勢に加え、インフレと金利の高止まりのほか、2024年は欧州連合（EU）議会議員選挙、米国大統領選挙、英国総選挙など3つの大きな選挙もあり、2024年第1四半期のベンチャーキャピタルによる投資は世界的に低調に推移すると予想されます。

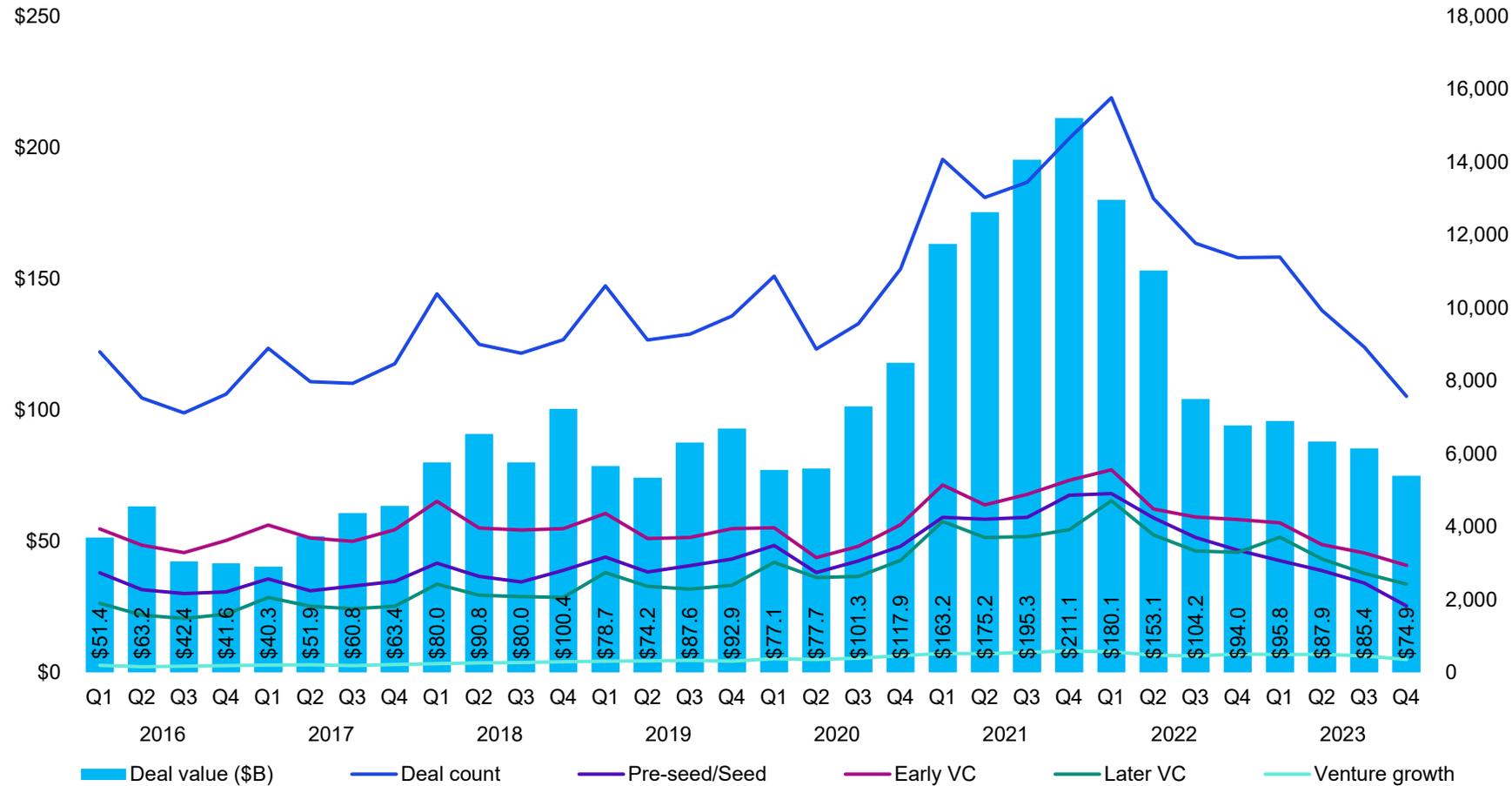
一方、これまで18ヵ月間にわたり世界的にベンチャーキャピタル市場が不透明な状況にさらされ続けていたことを考えると、安定の兆しが1つでも見られれば投資家の心理が変化する可能性があり、なかでも、金利の動向は注目すべき重要な要素です。

AIは、今後も世界のベンチャーキャピタルにとって最大の投資対象であるでしょう。ヘルステックもまた、南北アメリカ、アジア、欧州のベンチャーキャピタルにとって魅力的であり続けると予想されます。

グローバルー2023年第4四半期 (3/3)

Global venture financing

2016-Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



AI案件は、2023年に見られたベンチャーキャピタルによる投資の落ち込みを完全に覆すまでには至りませんが、いくつかの課題を軽減することは間違いありません。私が最も期待しているのは、AIがコストと収益性を優先する非AI企業に与える影響です。AIは役立つはずですし、状況を一変させる可能性すらあります。



Conor Moore
Global Head, KPMG Private Enterprise,
KPMGインターナショナル
Partner,
KPMG米国

米国 – 2023年第4四半期 (1/3)

米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、経済的・地政学的な懸念が継続していることに加え、2023年第3四半期にIPOを実施した企業のIPO後の業績が比較的低調であったこと、案件成立までの時間が大幅に長期化していることなどから、2023年第4四半期は大幅に減少しました。

AIへの関心が米国のベンチャーキャピタルの間で急上昇

AI分野は2023年第4四半期も米国のベンチャーキャピタルから大きな注目を集め、この分野で事業を行う企業に投資が集中しました。AIへの投資は膨大かつ多岐にわたり、業界やサービスの幅広い分野におよび、生成AIと大規模言語モデル開発を行うAnthropicによる20億ドルをはじめ、AIを活用した駐車場プラットフォームのMetropolisの17億ドル、AIを活用したデータ分析プラットフォームのDatabricksの6億8,400万ドル、脳科学とテクノロジーを活用するニューロテック企業のNeuralinkの3億2,300万ドルなど、AI分野が当四半期の米国での大型案件の多くを占めました。

IPO市場は依然として閉鎖的

2023年第3四半期に行われた英国のArmや米国のInstacartとKlaviyoの3社による大型IPOにより、2023年第4四半期にIPOを実施する企業が増えることが期待されましたが、3社のIPO後の業績は、さらなる企業をIPOに踏み切らせるには十分ではありませんでした。この結果は、2024年の上半期にIPO市場が回復するという期待に大きな影を落とすことになりました。多くのスタートアップがIPOの準備に取り組んでおり、1つか2つ大きなIPOイグジットの可能性がある一方、米国のIPO市場の復活は2024年の後半になる可能性が高いと予想されます。

2023年第3四半期に行われたIPOは、未上場企業の評価の指標となりました。これは、2024年第4四半期の未上場企業の真の評価に関して投資家と創業者の間に存在する評価のギャップの解消に繋がりました。2024年第1四半期に向けてさらなるディール機会が促進される可能性がある一方、これまで大統領選挙の年に起こりがちな経済の減速を考えると2025年になる可能性があります。

バイエリアが他の米国スタートアップハブと比べて回復力を示す

2023年のベンチャーキャピタルによる投資については、2022年と比較して地域別でサンフランシスコ・バイエリア（バイエリア）が最も回復力を示しました。バイエリアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は前年の337億ドルから414億ドルに増加しましたが、バイエリア以外の地域は低調でした。最も大きな打撃を受けたのはシアトルとデンバーで、ともに前年比65%以上減少し、次いでニューヨーク（50%減）、フィラデルフィア（37%減）、ボストン（13%減）となりました。

バイエリアの回復力は、バイエリアに拠点を置くAI関連企業への多額の投資のほか、2023年にIPOを見合わせざるを得ず、繋ぎとして実施した資金調達メガディール規模となった評価の高い多数の未公開企業の存在などによるものと考えられます。

ファンドの延命にロールオーバー・ファンドを活用するベンチャーキャピタル

低迷が続くイグジット環境において、多くのベンチャーキャピタルが自社のポートフォリオに含まれる企業がイグジットを成功させるために、2023年第4四半期にロールオーバー・ファンドの検討、もしくは導入を始めました。これらのロールオーバー・ファンドは、ファンドが特定の企業に投資している期間が長いため、一部のリミテッド・パートナーシップ（LP）にイグジットの機会を与える手段として利用されています。ロールオーバー・ファンドはベンチャーキャピタルにとっては比較的新しい手法ですが、プライベートエクイティ（PE）市場ではこれまでも利用されています。

米国 – 2023年第4四半期 (2/3)

2024年第1四半期に注目すべきトレンド

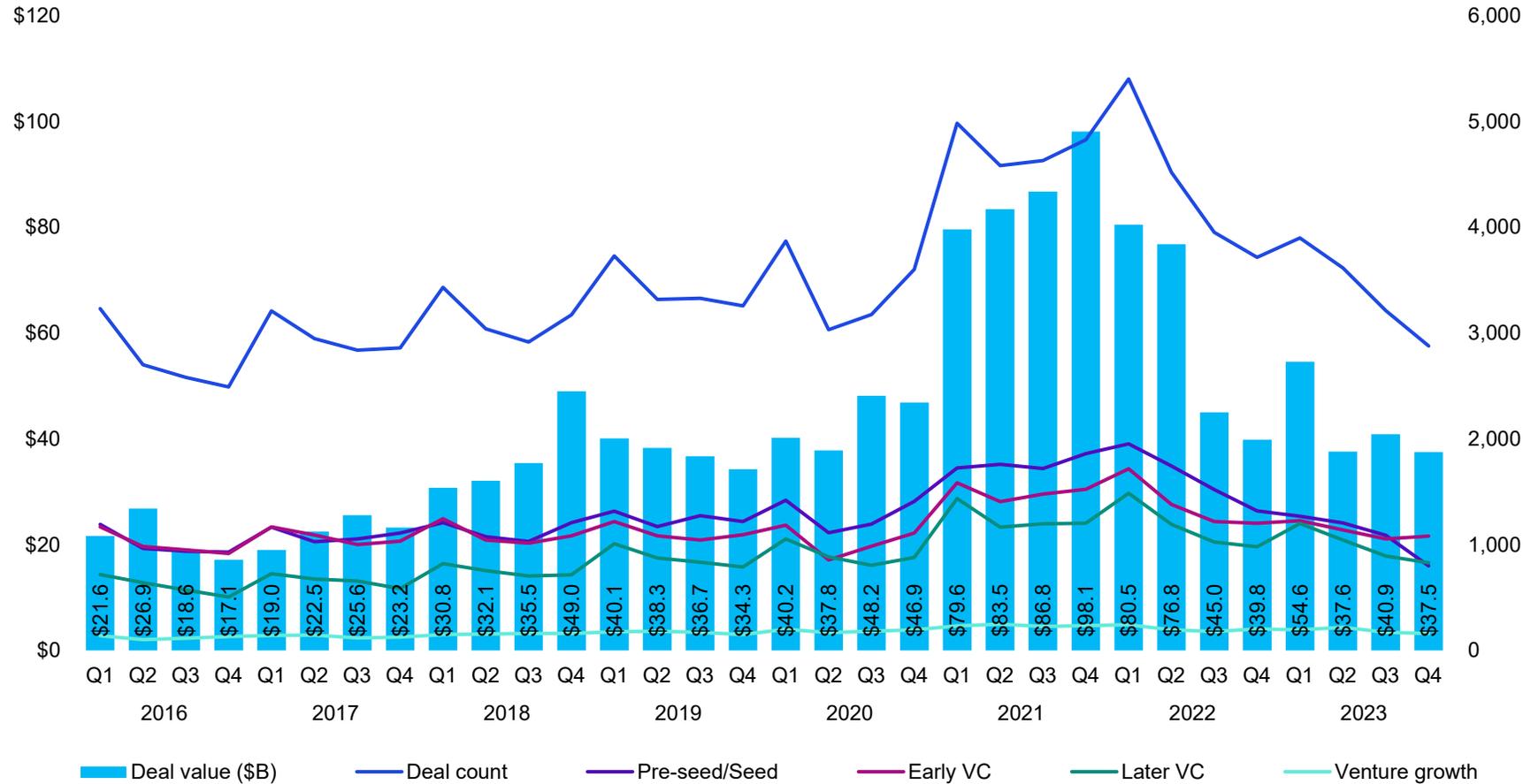
米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、投資家が案件のデューデリジェンスに引き続き長い時間をかけるとともに、事業環境を考慮したユニットエコノミクスと持続可能なビジネスモデルを持つ企業への投資を優先するため、2024年第1四半期に向けて低調な推移が続くと考えられます。

一方、そうしたなかでAIは引き続き重要な分野となる可能性が高く、米国のベンチャーキャピタルは2024年第1四半期もこの分野に資金を注ぎ続けると予想されます。長期的には、ベンチャーキャピタルによる既存のテクノロジーやソリューションを使ったAI関連企業への投資は減少し、真のAIを提供する企業にのみ投資が行われるようになる可能性があります。また、さまざまな業界で企業が労働力不足への対策と業務の効率化を目的にAIの導入を進めていることから、エンタープライズ向けAIにフォーカスしたソリューションへの注目がますます高まると考えられます。

米国 – 2023年第4四半期 (3/3)

Venture financing in the US

2016–Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



2024年は、スタートアップに対するベンチャーキャピタルからのプレッシャーが高まる可能性が高く、IPOの準備を進めているスタートアップや、IPOを模索しているスタートアップも増えてくるでしょう。しかし、米国の大統領選挙と英国の総選挙を控える2024年中に復活するとは限りません。市場が本格的に復活するのは2025年以降になるでしょう。



Francois Chadwick
Partner
KPMG Private Enterprise
KPMG米国

南北アメリカー2023年第4四半期（1/3）

ベンチャーキャピタルが市場におけるさまざまな継続的な課題を考慮し投資先の選択をますます厳しくしたことから、2023年の南北アメリカにおける取引総額は4年ぶりの低水準となり、さらに取引件数も5年ぶりの低水準に落ち込みました。

ベンチャーキャピタル市場に広がる警戒感、最も大きな影響を受ける新興ファンドマネジャー

2023年第4四半期も多くのベンチャーキャピタルが極めて慎重な姿勢を取り続け、案件に対するデューデリジェンスを大幅に増やしました。この背景には、過去1年間にベンチャーキャピタルが支援した一部の企業の目立った失敗、未公開企業のバリュエーションに対する継続的な懸念、イグジット機会の不足など、さまざまな要因があります。そのようななか、ベンチャーキャピタルは収益性を重視する姿勢を強め、より安全性の高い案件や、現在の経済情勢下で回復力のあるビジネスモデルを持つスタートアップにフォーカスしています。このような要因が重なった結果、2023年第4四半期のディールスピードは大幅に鈍化しました。

また、2023年第4四半期においては、LPが投資先のベンチャーキャピタルファンドに対するこだわりを強め、実績のあるファンドマネジャーをより重視するようになりました。このため、一般的に資金調達のサイクルが長くなり、さらに初めてファンドを設立する場合の資金調達を難しくしています。投資の選択肢が増えたことで、投資配分を見直すLPも出てきています。

カナダでは前四半期比でベンチャーキャピタルによる投資が上向きに

カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、地熱に特化した代替エネルギー企業のEavorによる1億8,200万ドルや炭素除去企業のDeep Skyによる5,400万ドルなどに牽引され、第3四半期の9億7,600万ドルから2023年第4四半期は14億ドルを超えました。カナダでは引き続きエネルギーとクリーンテックが最も注目を集める投資分野の1つでした。

2023年第4四半期、量子コンピューティング企業のPhotonic社も1億ドルの資金を調達しました。ディープテックやAI分野のスタートアップへのカナダ政府からの資金提供プログラムは継続され、これらの分野の長期的な発展に寄与するものと思われます。

ベンチャーキャピタルが適切な投資先を探すなか、カナダでは依然として楽観論が根強い

厳しい市場環境にもかかわらず、2023年第4四半期のカナダのベンチャーキャピタル市場は、豊富な投資資金を背景に楽観的な見方が依然として根強くあります。カナダにおいてもディールスピードはかなり鈍化しているものの、ベンチャーキャピタルは投資アプローチをより慎重に選び、現在の経済状況に合ったスタートアップを注意深く探しています。

ブラジルでは取引件数が激減するなど低調が続く

ブラジルでは、2023年第3四半期から第4四半期にかけて取引件数が20%近く減少したにもかかわらず、B2B企業のQI Techが1億9,700万ドルを調達したこともあり、取引総額はわずかな減少にとどまりました。取引件数の大幅な減少を受け、ブラジルでは多くのスタートアップが追加資金の調達が可能となり、一部のスタートアップは廃業を余儀なくされています。そのようななか、フィンテックは引き続きブラジルにおけるベンチャーキャピタルの注目分野であり、投資家は企業に収益性を示すよう圧力を強めています。

2023年第4四半期、ブラジルでのコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は減少しましたが、多くの企業が投資について、将来的に自社の中核事業の改善あるいは自社のビジネスに近いまたは破壊的な機会をもたらすテクノロジーへの投資の機会と捉えていることには変わりはありません。このため、コーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、他の形態の投資と比較して、現在の経済的要因のなかでも回復する見込みがあると考えられます。

南北アメリカー2023年第4四半期 (2/3)

ブラジルのオープンバンキングは長期的な投資成長にとって有利な立場

ブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資はやや控えめといえるかもしれませんが、銀行口座を持たない人口が多いことに加え、即時決済プラットフォームや政府によるオープンバンキングとオープンファイナンスの奨励などから、ブラジルは長期的な成長に向けて好位置にあると言えます。このため、ブラジルの多様な人々の幅広いニーズに対応できるフィンテック企業やその他の分野の企業にとって、長期的にはビジネスチャンスが拡大する可能性があります。

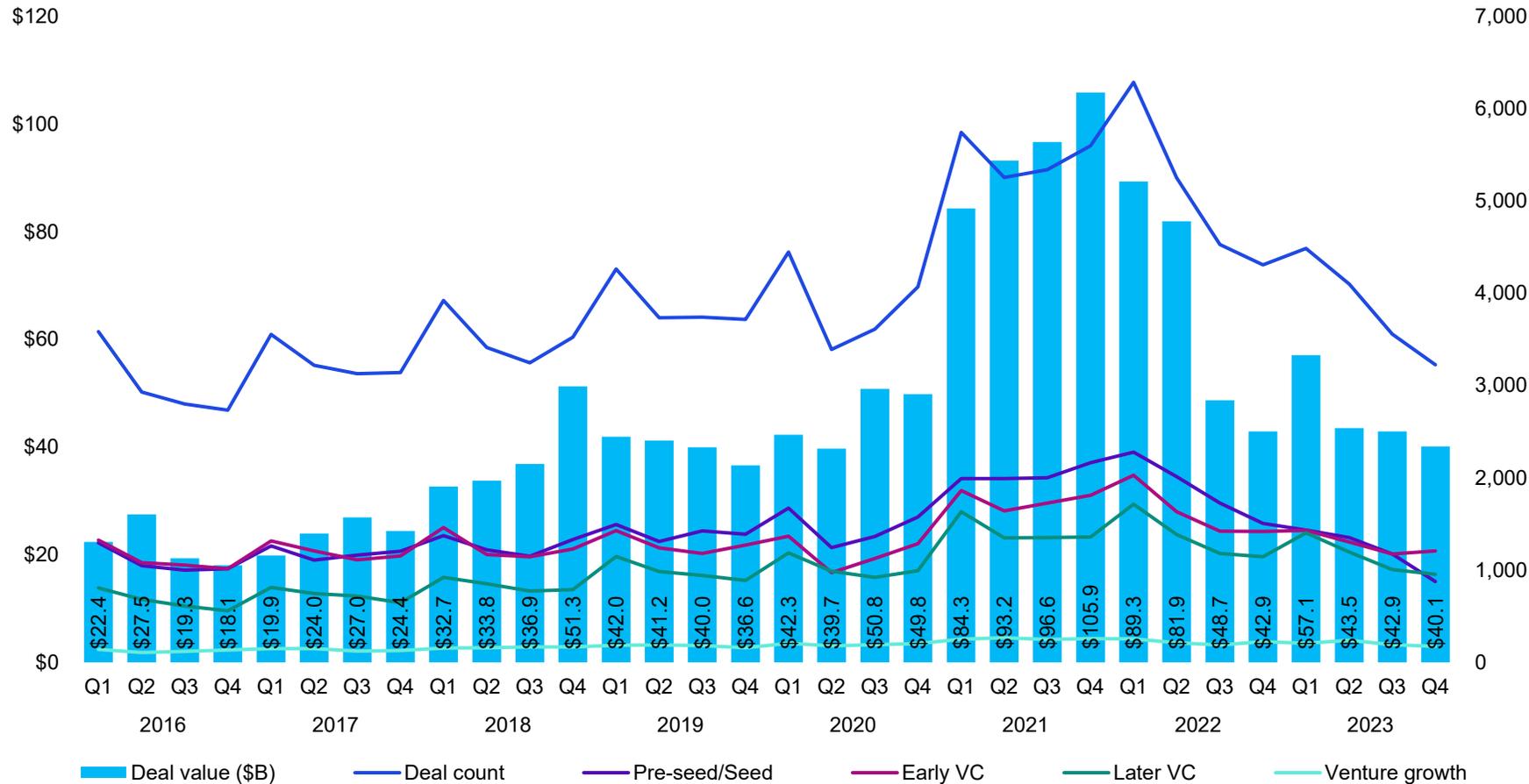
2024年第1四半期に注目すべきトレンド

南北アメリカのベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第1四半期も軟調に推移すると予想される一方、AI分野は引き続き活発な取引と資金調達が見込まれます。この地域におけるIPO活動の再開は2024年後半以降になると見られ、IPOが再開されるまでは案件に占めるダウンラウンドの割合が増え続ける可能性が高いと考えられます。また、ベンチャーキャピタルが収益性が明確な企業や持続可能なビジネスモデルを持つスタートアップに注力するため、資金を調達できない企業が増える可能性があります。

南北アメリカー2023年第4四半期 (3/3)

Venture financing in the Americas

2016–Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



2023年のブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は軟調に推移しましたが、過去2年間に調達された資金額を考えると、長期的な可能性は高いと言えます。これまでに調達された資金が国内の成熟したスタートアップに割り当てられ、追加資金により成長スピードが上がるでしょう。2024年に向けて、多くの企業がオープンファイナンスやインスタント・ペイメント・プラットフォーム、AIを活用し、低コストでより利用しやすい顧客に特化したオーダーメイドのサービスを提供するでしょう。



Daniel Malandrin
Partner, Venture Capital & Corporate Ventures
KPMGブラジル

欧州－2023年第4四半期（1/3）

欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資は、特に米国の投資家が同地域への大型投資を控えたことから、前四半期比で大幅に減少しました。世界的なマクロ経済情勢に加え、ウクライナや中東情勢などが欧州への投資の後退に影響したと考えられます。2023年の欧州におけるベンチャーキャピタルによる取引総額は、2021年と2022年に比べ大幅に減少したものの、2020年の水準と同程度となり、2020年以前の水準は上回りました。

AIへの関心が急上昇するなか、エネルギーとESG関連は引き続き魅力的な分野に

2023年第4四半期、ドイツを拠点とする大規模言語モデルに特化した企業Aleph Alphaによる4億8,600万ドルのほか、フランスのMistral AIによる4億3,400万ドル、イスラエルを拠点とするエンタープライズ向けAIシステム企業のAI21 Labsによる2億800万ドルなど、AI分野は欧州で多額の投資を呼び込みました。

AIに加え、スウェーデンを拠点とする電池メーカーNorthvoltの1億4,500万ドルやエストニアを拠点とするエネルギー貯蔵会社Skeleton Technologiesの1億1,400万ドルなど、2023年第4四半期もエネルギーとESG関連分野ではシード案件から大型案件まで引き続き好調を維持しました。ネットゼロに向けたコミットメントやエネルギー転換に対応するために資金調達を迅速に拡大する必要があることを考えると、この分野は当面投資家の注目を集めることが予想されます。

安定性の欠如が英国における投資の課題に

2023年第4四半期の英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、地政学的・マクロ経済的な課題が相次ぐなか、第3四半期から大幅に減少しました。2024年には英国総選挙が行われるなど、今後も市場の安定性の欠如は長期化が予想され、投資家の信頼を損なっています。このため、多くのベンチャーキャピタルは手元資金を温存し、市場牽引力と収益性が実証された企業に投資を集中させるようになりました。2023年、特に第4四半期はスタートアップが投資を呼び込むために力強いことを示す必要がありました。

英国の多くのスタートアップが将来のIPOに向けた準備を進めるなか、M&Aとともにイグジット市場は2023年第4四半期も閉ざされたままでした。IPO市場の再開に向けては、現在よりもさらに経済的および地政学的安定が不可欠です。

ドイツのベンチャーキャピタルによる投資は堅調に推移

2023年第4四半期、欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資はほとんどの国・地域で減少しましたが、ドイツにおいてはAI企業のAleph Alphaによる4億8,600万ドルの資金調達などもあり、前四半期と同水準を維持しました。ドイツでのベンチャーキャピタルによる投資は、厳しいマクロ経済情勢とIPOの機会が閉ざされたままであったことから非常に保守的でした。

投資家からの成長計画よりも収益性を重視する圧力により、2023年第4四半期、多くのスタートアップで人員削減が相次ぎました。また、スタートアップの多くがダウンラウンドを回避するために転換社債型ブリッジローン（つなぎ融資）などの代替資金を得ることに注力しました。ドイツでは、食料品宅配事業や後払い決済事業といった分野が最も大きな打撃を受け、新たな資金を調達できないスタートアップの廃業が発生するなど、多くのスタートアップが苦境に立たされています。

レイターステージの取引が減少し、北欧への投資は閑散とした状態が続く

北欧地域のベンチャーキャピタルによる投資は、2023年第4四半期も低調でした。アーリーステージ案件は比較的安定していたものの、レイターステージ案件の資金調達は低調となり、スウェーデンを拠点とする電池メーカーのNorthvoltの1億4,500万ドルが当四半期最大の案件となりました。また、スウェーデンを拠点とするグリーンヒーティング企業のAiraが9,000万ドルを調達したほか、デンマークを拠点とする神経筋疾患の新規治療開発企業のNMD Pharmaが7,900万ドル以上を調達するなど、クリーンテックとバイオテック分野が当四半期に北欧地域で多くの投資を呼び込みました。

欧州－2023年第4四半期（2/3）

アイルランドは低調に推移する一方、2024年に上向き可能性も

アイルランドにおける2024年第4四半期のベンチャーキャピタルによる投資は低調であったものの、電気自動車（EV）充電器メーカーのEasy Go、創薬会社のShorla Oncology、AIにフォーカスした病理学ソフトウェア会社のDeciphexなど、多くの企業が堅調に資金を調達しました。当四半期、日本の通信大手のソフトバンクがコネクテッドカーなどに向けたIoTプラットフォームを手掛けるアイルランドのCubic Telecomの株式の51%を約4億7,300万ドルで取得すると発表したこともあり、2024年からアイルランドでのベンチャーキャピタルによる投資が上向き可能性があります。

2024年第1四半期に注目すべきトレンド

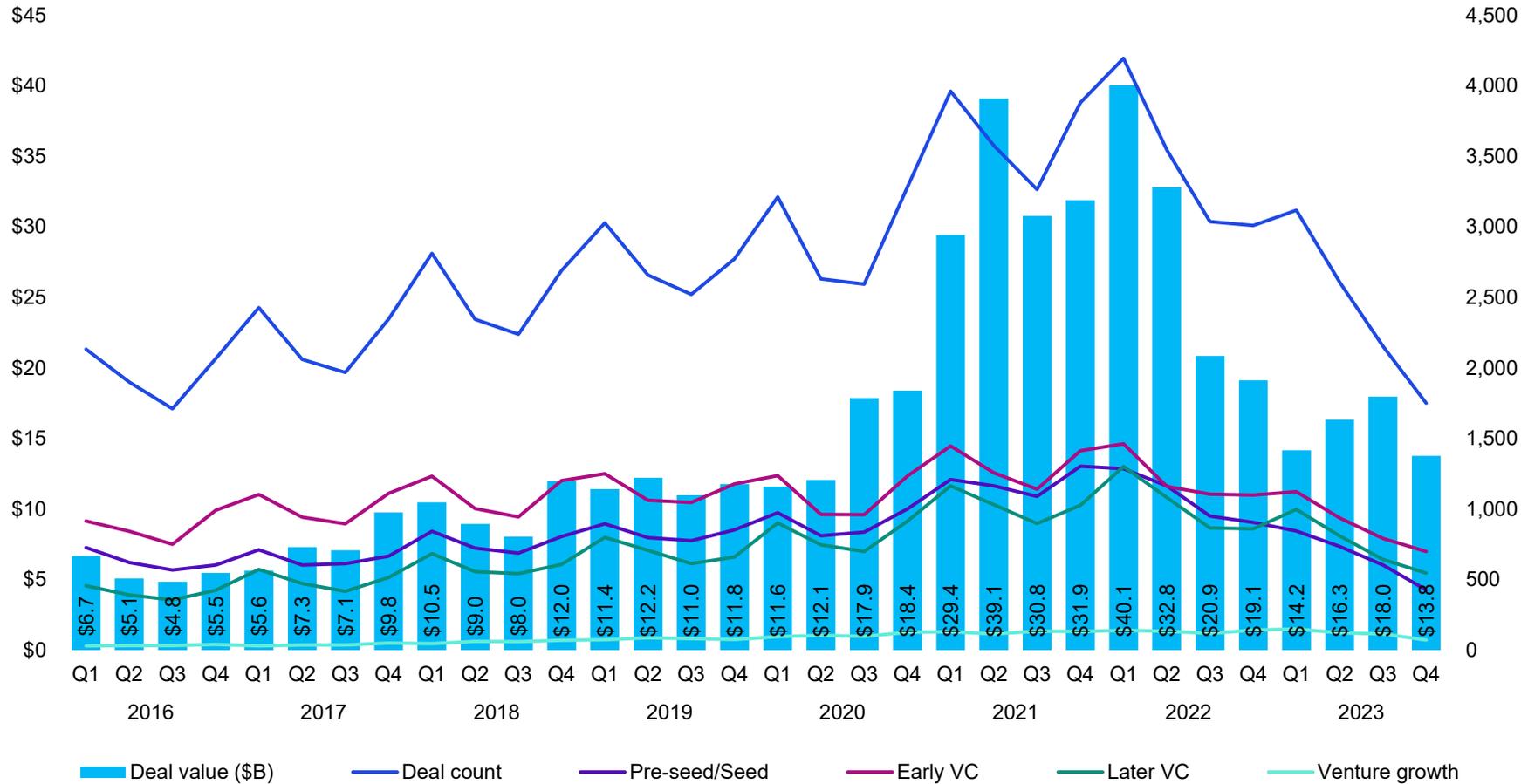
欧州と中東との関係やベンチャーキャピタルが支援する企業のイグジット機会の長期的な欠如、2024年に欧州で行われるいくつかの選挙に関連する不確実性など、現在の逆風を考慮すると、この地域におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第1四半期に向けて軟調に推移すると予想されます。多くのベンチャーキャピタルは、企業がLPに資本を還元しやすいよう収益性を確保することを引き続き強く求めると考えられ、2024年第1四半期にさらに多くのスタートアップが倒産する可能性があります。これにより健全なエコシステムに長期的に貢献できる質の高い企業への注目が高まる可能性があります。

2024年、コーポレートベンチャーキャピタルやベンチャーキャピタルのほか、アクセラレータープログラムなどの関係者は、戦略的目標を達成することに加えて、より効果的なコスト管理を達成するための手段として協業が重要な課題となることが考えられます。また、大企業のコーポレートベンチャーキャピタルが資本投資能力を強化するために他社と連携したコーポレートベンチャーキャピタルファンドの共同設立の数も増加する可能性があります。

欧州 – 2023年第4四半期 (3/3)

Venture financing in Europe

2016–Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



2024年に向けて平穏と安定を切望します。案件の成立に超低金利などを必要としない要素もあります。経済と政治が安定することで滞っている案件が動き出し、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性が高まります。



Nicole Lowe
UK Head of Emerging Giants
KPMG英国

アジア – 2023年第4四半期 (1/4)

金利の上昇やその他の経済的課題、地政学的緊張、資金流動性やイグジット不足への懸念などを背景に、2023年のアジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資総額および取引件数は大幅に減少しました。中国を拠点とする半導体製造企業のChangxin Xinqiaoとシンガポールの電子商取引企業のLazadaによる10億ドル超の資金調達があったにもかかわらず、2023年第4四半期のベンチャーキャピタルによる投資は低調でした。

中国の主要なセクターは引き続き投資を誘引する一方、全体では10年ぶりの低水準に

2023年、中国におけるベンチャーキャピタルによる投資は7年ぶりの低水準になりました。一方、半導体分野のChangxin Xinquioの20億ドルをはじめ、クリーンテック分野のHuaSun Energyの2億7,400万ドル、AIと自律走行分野のDidi Autonomous Drivingの1億4,900万ドルなど、市場全体が軟化傾向にあるにもかかわらず、注力セクターは引き続き多くの資金を集めています。AIの特定分野への応用に取り組むスタートアップも当四半期に関心を集めました。この分野のスタートアップの大半はまだアーリーステージです。

日本のベンチャーキャピタルによる投資は他の国・地域に比べて好調な年を記録

2023年、多くの投資家が日本の進化するスタートアップ・エコシステムに強い関心を示し、多様化するスタートアップが投資を惹きつけました。2023年第4四半期、宇宙関連企業のAstroscaleのほか、代替食肉企業のDAIZ、B2B請求書作成・発行企業のLayerXが、当四半期では最大となるディールを実施しました。

日本での取引総額は前年比で減少しましたが、より大きな減少が見られた他の国や地域と比べると、日本は好調な数字を記録しました。2023年、日本の株式市場は33年ぶりの高値を記録しましたが、日本のベンチャーキャピタル支援企業のバリュエーションは比較的安定していました。日本政府も、発展の途上にあるベンチャーキャピタルエコシステムを継続的に支援しており、政府によるスタートアップ支援プログラムの下、官民共同ファンドを含むベンチャーキャピタル市場へのLPからの投資が増加しました。また、日本は有望なスタートアップへの出資を他の国や地域よりもリーズナブルな価格で行えると考える海外の投資家からの注目も高まっています。

日本でのコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は堅調を維持するも、他の国・地域は大幅に減少

アジアの他の国や地域と比較すると、2023年の日本でのコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は堅調に推移し、日本のベンチャーキャピタルによる投資総額のうちコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は37億ドルを超え、前年のコーポレートベンチャーキャピタルによる投資額をわずかに下回るにとどまりました。多くの日本企業が、特に脱炭素化や自動化などの分野でイノベーションの課題解決に向けてスタートアップと継続的に取り組んでいます。インドは、日本とは対照的にコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は2023年に前年比約65%減と非常に低調で、オーストラリアと中国もともに50%以上の減少となりました。

香港では引き続きフィンテック分野の成長支援に注力

中華人民共和国香港特別行政区（SAR）では2023年、1年を通してフィンテックが政府の注力分野でした。2023年8月、香港金融管理局（HKMA）は業界全体のデジタル化の推進に向けた道筋を示した「フィンテック・プロモーション・ロードマップ」を公表しました。このロードマップでは、ウェルステックやインシュアテック、グリーンテックなどの主要分野と、AIやブロックチェーンなどの主要テクノロジーに焦点を当て、今後1年間で実施する主な活動の概要が示されています¹。また、香港金融管理局はロードマップを発表した後、グリーン・フィンテックに焦点を当てたコンテストを開催し、12月に開催された香港金融管理局主催の「Green and Sustainable Banking Conference」で受賞者が発表されました²。

¹ <https://www.hkma.gov.hk/eng/news-and-media/press-releases/2023/08/20230825-3/>

² <https://www.hkma.gov.hk/eng/news-and-media/press-releases/2023/12/20231211-4/>

アジア – 2023年第4四半期 (2/4)

2024年第1四半期に注目すべきトレンド

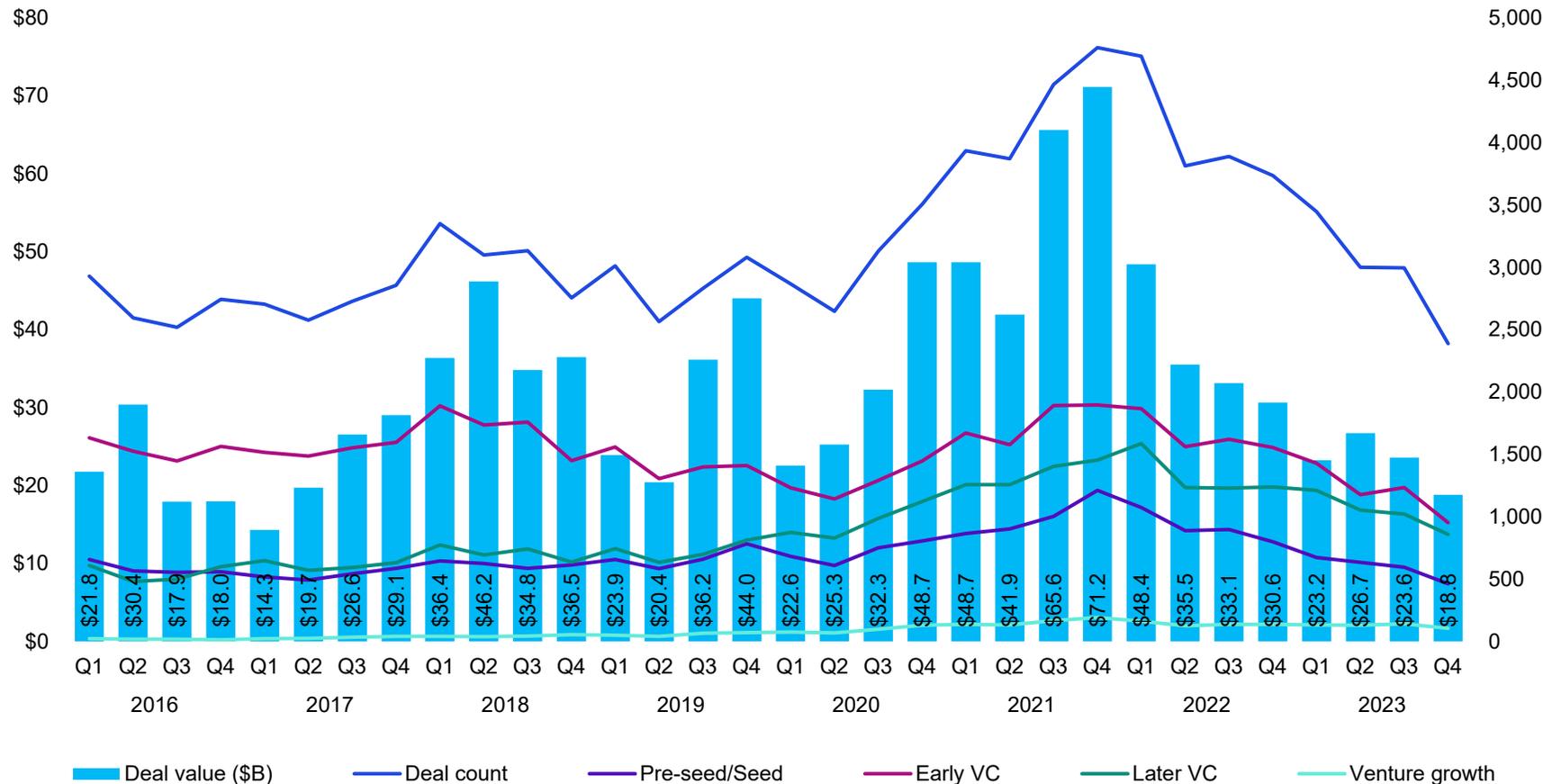
2024年第1四半期に向けて、アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は全体としてはかなり低調な状態が続くと予想される一方、AIやディープテック、クリーンテック、代替エネルギーなどの分野では堅調な投資が行われると考えられます。

日本におけるベンチャーキャピタルによる投資は、エコシステムが進化と成長を続けていることから、2024年第1四半期もアジアの他の国や地域よりも底堅く推移すると思われれます。日本のベンチャーキャピタルは、特にESGソリューションと、スペース（宇宙）テック、バイオテック、自動運転などの分野にフォーカスしたディープテックソリューションに注力することが予想されます。また、フィンテックも、特に一般消費者向け小売商品関連において日本でも関心が高まると考えられます。

アジア – 2023年第4四半期 (3/4)

Venture financing in Asia

2016–Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



中国はEV分野の強力なリーダーであり、EV分野へのベンチャーキャピタルによる投資は最も回復力を示している分野の1つとなっています。多くの大手EVメーカーが東南アジアを含むさまざまな地域での事業拡大に取り組んでおり、また、市場規模が小さい地域では、EVメーカーが充電からリース、販売まで、総合的にサービスを提供することでEVエコシステムの構築に注力しています。

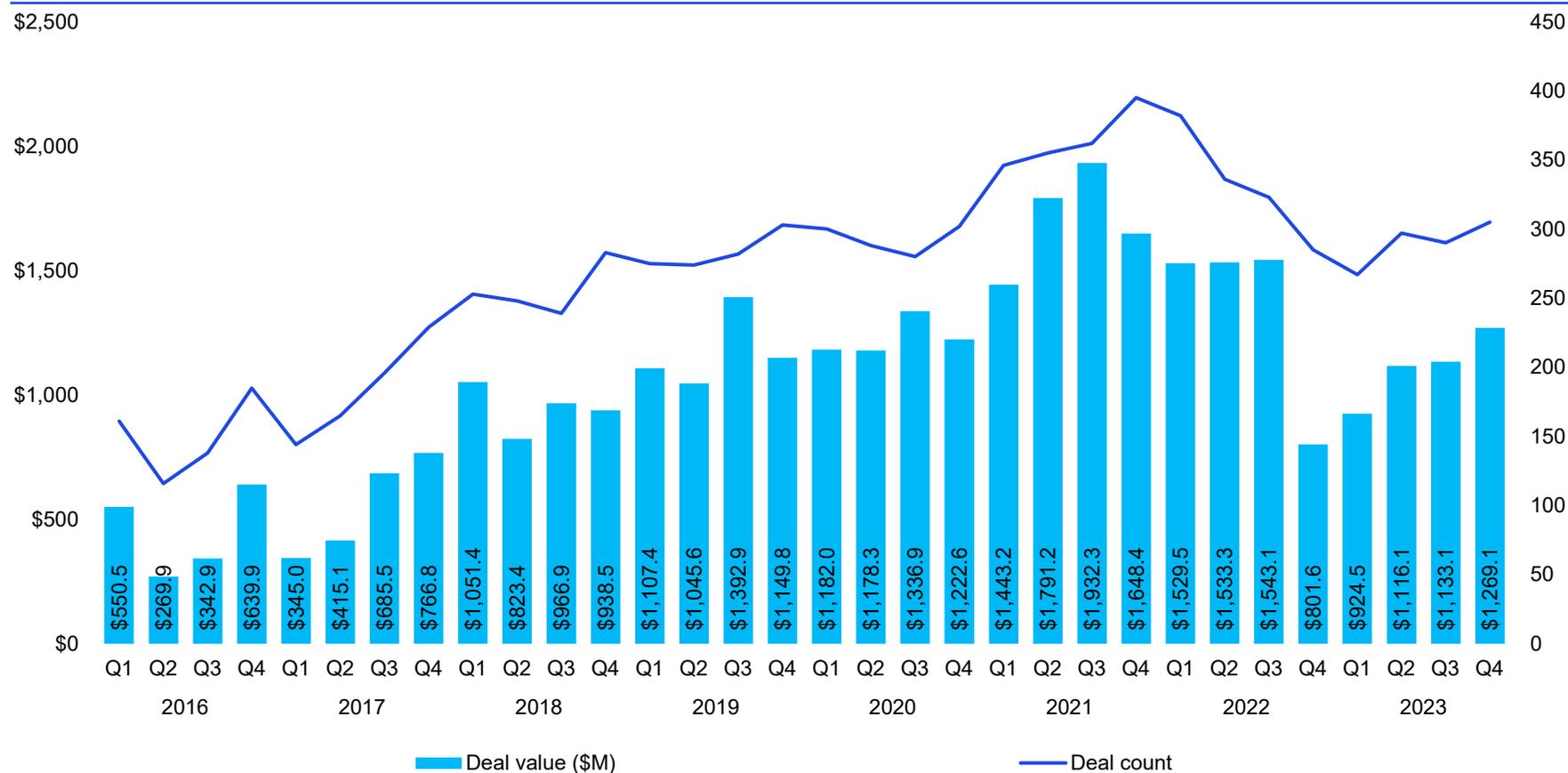


Zoe Shi
Partner
KPMG中国

日本 – 2023年第4四半期 (4/4)

Venture financing in Japan

2016–Q4'23



Source: Venture Pulse, Q4'23, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of December 31, 2023. Data provided by PitchBook, January 17, 2024



日本政府による支援が、日本におけるスタートアップ・エコシステムが近年急速に進化・成長した理由の1つです。また政府は、日本のスタートアップが潜在能力を最大限に発揮し成長を遂げるためには、海外から資金を呼び込む必要があると認識しており、外国人投資家が日本で投資を行いやすくするための法改正を進めています。



阿部 博
 常務執行理事
 スタートアップ統轄パートナー
 有限責任 あずさ監査法人



大谷 誠
プライベートエンタープライズセクター
統轄パートナー
KPMGコンサルティング株式会社
パートナー
makoto.otani@jp.kpmg.com

阿部 博
プライベートエンタープライズセクター
スタートアップ統轄リーダー
有限責任 あずさ監査法人
パートナー
hiroshi.abe@jp.kpmg.com

鈴木 智博
有限責任 あずさ監査法人
ディレクター
tomohiro.t.suzuki@jp.kpmg.com

KPMGジャパン セクター統轄室
Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター
kpmg.com/jp/private_enterprise

英語オリジナル

[Venture Pulse Q4 2023 : Global analysis of venture funding](#)



本冊子は、KPMGインターナショナルが2024年1月に発行した「Venture Pulse Q4 2023: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2024 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited(「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://kpmg.com/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2024 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 24-1014

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.